馬詰研究奨励賞海外研修等実施報告書

令和　8 年　7 月　31 日

工 学 研 究 科 長　　殿

所　属：　化学理工学　　専攻

課　程：　博士後期課程　3　　回生

氏　名：　安澤　樹一

<table>
<tr><td>研修の目的</td><td colspan="3">自身がこれまで取り組んできた研究と材料応用の間を埋める研究領域に取り組み、基礎研究から応用研究への展開を学ぶとともに、海外での研究活動や英語でのディスカッションを通じて研究者として成長することが本研修の目的である。</td></tr>
<tr><td>研修の期間</td><td colspan="3">2026 年 4 月 19 日～2026 年 7 月 21 日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">研修の実施先</td><td>日程</td><td>滞在地</td><td>研修実施機関名等（指導教員名）</td></tr>
<tr><td>2026 年 4 月 20 日
～2026 年 7 月 20</td><td>英国
ケンブリッジ</td><td>University of Cambridge, Yusuf Hamied Department of Chemistry (Prof. Oren A. Scherman)</td></tr>
<tr><td>研修の概要</td><td colspan="3">受入研究室で取り組まれている超分子架橋剤を用いた高強度・高伸長性ハイドロゲル材料について、その機械的特性の向上に取り組む。また週 2 回開催される研究会において、研究発表・ディスカッションを行う。</td></tr>
<tr><td>研修の成果等</td><td colspan="3">従来、基礎化学の観点から注目されてきた分子幾何を材料化学へ応用する研究に取り組んだ。その結果、直感的な予想とは異なる分子系において大幅な機械的特性の向上を確認し、新たな材料設計指針となり得る成果を得ることができた。加えて、自身の研究発表のみならず、グループミーティングにおいても積極的に質問や議論に参加し、研究室の一員として存在感を示すことができた。</td></tr>
<tr><td>そ　の　他
※本海外研修経験による将来の抱負等</td><td colspan="3">今回の研修を通じて、研究内容以外にも自身および日本の学生に不足していると感じた点が二つあった。一つ目は学生同士の活発なディスカッションである。研究室内の至る所で学生同士が議論を交わしており、日常的な議論を通じて研究を深める文化が根付いていることを実感した。二つ目は、グループミーティングにおける積極的な質疑応答である。海外の研究室では、自ら積極的に発言し議論に参加することが、自身の存在価値を示すことに繋がると強く感じた。これらの姿勢は日本に持ち帰り、自身の研究活動や研究室にも還元していきたい。
また、本研修を通じて、将来は世界を舞台に活躍する研究者になりたいという思いが強くなった。
最後に、貴重な海外研修の機会を賜りました故馬詰彰様ならびにご家族の皆様、そして運営委員会の皆様に心より深く感謝申し上げます。</td></tr>
</table>